

スカウトみぎ

ボーイスカウト日本連盟が創設されてから100年。
国内にある県連盟章を並べて見ました。どの記章も魅力的ですね！

NO.59 2022.11.1



この県連盟章の画像は、ボーイスカウト各隊元リーダーたちが、現役リーダーを応援するためのサイト Polar Star さまの了承をいただき、掲載させていただきました。 <https://polar-stars.com/>

SAFE
FROM
HARM



そなえよつねに
ボーイスカウト

～ 第18回日本スカウトジャンボリー 代表スカウトキャンプに参加して ～

交友関係を広げたいと考えて 仙台第1回 ボーイスカウト隊 北嶋礼伍



全国のスカウトたちと交流し、交友関係を広げたいと考え参加を決意しました。

初めて顔を合わせたスカウトとキャンプ生活やプログラムを円滑に行うことが出来たこと、大会期間中に会ったスカウトたちとたくさん話すことが思い出となりました。

全国で活動しているスカウトたちと18NSJという機会を通して交友関係を広げることが出来ました。

ベンチャー隊への上進を視野に入れることによって、今回知り合ったスカウトとまた一緒に活動出来る、その可能性が広がるのでは。これからの楽しみが増えました。

最後に派遣に際し支援いただいた宮城県連盟の方々、仙台第1回ボーイ隊指導者の方々、ありがとうございました。



日ジャンに参加できるとは 仙台第1回 北嶋宜子（保護者）

入隊から現在まで振り返ってみました。

体験会のアイスクリームで入隊を決め、カブ隊ではやらかしまくり。

当時、マイペースで問題だらけの我が子を見て「ボーイ隊（で活動するのは）無理だな」と心から思っていました。

それがどういうわけか……の現在です。日ジャンに参加できるとは。親として心配やら楽しみやら驚きが一遍に経験できるイベントでした。普段の活動や訓練や指導、関係者の皆様のおかげで貴重な時間を過ごしています。

この場を借りてお礼を。ありがとうございます。

日本ジャンボリーに参加して 石巻第2回 ボーイスカウト隊 野村宗太



私が日本ジャンボリーに行こうと思ったわけは、小さい頃から先輩からジャンボリーの話をして聞いていて、いつか行ってみたいと思っていたからです。

ジャンボリーでの思い出は、秋篠宮夫妻にお会いできたことと、ジャンボリー大集会で、国旗を持って行進したことや、代表として挨拶したこと。

ボーイスカウトでは、このような貴重な体験ができるので、これからも頑張っていきたいです。

ジャンボリーの魅力は、いろいろな人と交流できる事だと思います。私も参加して、友達がたくさん出来ました。

皆さんも機会があれば参加してみてください。

頼もしく成長していると実感しています 石巻第2回 野村美由紀（保護者）

長男をボーイスカウトに入れようと思ったきっかけは、友人のお子さんが入っていて、伸び伸びと個性を活かし、体験を通して経験を積む。学びが多い活動をする組織と聞き、今後の成長にとって大切なことがいっぱいできそうと思い、ビーバー隊から入団させました。初めから楽しい活動で、子供も親もあつという間の10年でした。

活動の中で、ジャンボリーに参加した子供たちの生き生きとした姿を見て、我が子も……と願っていたところ、チャンスをいただき、参加することができ、思った以上の経験、出会い、多くの学びを得られたようです。今、世界ジャンボリーに向けて、頑張っている姿を見ると、頼もしく成長していると実感しています。これからの成長も楽しみにしています。



「2022 つながろう in南蔵王」 仙台第1回 団委員 山田浩幸



日本スカウトジャンボリー宮城サテライトが中止になったことから、仙台第1回ではビーバーからベンチャーまで年代の違うスカウトのつながりを作るため、サテライト会場の予定地だった南蔵王野営場で団行事を行いました。ビーバー、カブ、ボーイ、ベンチャーが縦割りの班に分かれて、野営場内に設けられたチェックポイントを通過しながら、魚釣りやクップなどのゲームと手旗やロープワークなどの課題に挑戦しました。

途中で、ベンチャーやボーイのお兄さんお姉さんが、歩き疲れた小さい子の手を引いてあげたことや、手旗やロープワークの技能を見せてあげたことで、スカウトのきずなと団の連携がより深まったものと思います。



大満足の釣り集会 鹿島台第1回 広報連絡員 石垣貴信

鹿島台第1回では、9月25日(日)石巻市の北上川で釣り集会を行いました。天気が心配でしたが、みんなの願いが通じたのか、当日は青空が広がり、絶好の釣り日和。期待も高まります。

釣り場に到着、隊長から釣りの注意点、釣竿とリールの使い方、餌の付け方を教えてもらい、チャレンジ章の「フィッシャーマン」を目指し、さっそく釣りを開始！前日の雨で川の水が濁り、魚の反応は今ひとつですが、全員、全集中で魚のあたりを待ちます…。

しばらくすると待望の「釣れたー！」の声。次々とハゼが釣れてきます。

2時間ほどの釣りでしたが、大人よりスカウト達の方が沢山釣れました！

お昼は、持参したおにぎりやお弁当をみんなでいただき、笑顔いっぱい、大満足の釣り集会でした。



■チャレンジ章とは... 少年達の生活の幅を広げ、個性を伸ばし、自信を深めるための進級課目

夏の活動、ジャンボリーサマー2022 泉第1回 ボーイ隊 スカウト 千葉翔央



18NSJ中止という残念な報告を受けたのは荷物の準備も終盤に差し掛かった時のことでした。

しかし、リーダー皆様のお蔭で東部地区代替集会ジャンボリーサマー2022が行われ、活動できた事、大変嬉しく思いました。

代替集会では、日本一プログラムの班旗立て、火起こし、手旗信号リレーに挑戦しました。

班員と協力し上位入賞を目指しました。火起こしは風が吹いていたため麻ひもに火が付きにくく大きなタイムロスとなりました。

今回の経験より、他の技能も含め、技能向上を目指さなければいけないと思うきっかけとなりました。

ボーイ隊でのNSJ参加は叶いませんでしたが、次回19NSJは、ベンチャー隊として、奉仕として参加出来るよう、より良いスカウト活動が続けていきたいです。



■NSJとは... NIPPON SCOUT JAMBOREE ボーイスカウト日本連盟主催のキャンプ大会 日本でされるボーイスカウトの最大行事

『仲間』に出会えることも大きな魅力

岩沼第1回 ビーバー隊 保護者 石本千萩

今年は、ニジマスつかみやマウンテンバイク体験、泥んこ遊び、ザリガニ釣りなどの活動をしました。

ニジマスつかみでは、沢を利用した天然のプールでニジマスとイワナを捕まえ、自分たちで捌きました。

普段は目に入らない過程を体験することで、命をいただき、私たちは生きていることを実感しました。いつもは魚が苦手なスカウトも頭と骨以外は残さず、きれいにおいしくいただくことができました。

ビーバースカウトでは、隊長と副長の力を借りながら、自然の中で楽しく遊び、学んでいます。

年齢や校区の垣根を乗り越え、いろんな活動を通じて、単なる友達ではなく『仲間』に出会えることも大きな魅力の一つです。



離れててもみんな笑顔で参戦！ 泉第1回 CS隊副長 針生敏行

今年7月、泉第1団のCS隊は東部地区合同でパインウッドダービーを開催しました。

これまでの組集会で作成した完成図をもとに、木材を思い思いの形にカット。慣れない工作、ぎこちなかった作業も少しずつ上手になっていくスカウトたち。ヤスリ掛け・色付けを行い、世界に一つしかない自分だけのレースカーを完成させていました。

レース当日は、72台の車がエントリーしてくれました。本来であればカブスカウト全員が集まり、白熱したレース、歓喜に包まれる会場なのですが.....



感染対策を取りながら活動を実施する為、会場にはCS課程最後となるくまスカウトのみを招待。他のスカウトはWEB配信でレースを観戦しました。

目の前をレースカーが疾走していく会場はもちろん、画面越しでもその迫力が十分伝わっているようでした。パソコンを通して聞こえてくる応援や歓声、画面に食い入るスカウトたちの真剣な表情と笑顔。

どんな状況でも安全・安心して参加できる活動をこれからも継続していきます。離れていても思いはひとつに。

コロナ禍でも 盛り沢山の夏季キャンプ 白石第1回 ビーバー隊 隊長 井上淳一



18NSJ宮城サテライト会場が開催直前で中止となったため、白石第1団では夏季行事として、8月21日に長老湖と横川溪谷公園のやまびこ吊橋を往復するハイキングを実施しました。

当日は天候に恵まれ、木漏れ日の遊歩道を散策したり、揺れる吊橋を渡ったりしてハイキングを楽しみました。



ハイキングの終着点である長老湖の湖畔では、串に刺したマシュマロやウィンナーを焼いて、湖畔の景色を見ながら食べたり、湖面で水切りをして遊んだり、楽しい時間を満喫しました。

今回の宮城サテライト会場でのジャンボリー中止を含め、コロナ禍で色々と活動が制限される窮屈さから解放されたひと時を楽しむことが出来ました。





楽しかったくまキャンプ

塩釜第1回 カブスカウト 荻野桜子

ボーイ隊上進の準備として5年生だけが参加できる「くまキャンプ」に行ってきました。

特に楽しかった事はスタンツです。スタンツは当日に班の3人で話し合い決めました。

1人がふと言った『ダジャレ』がきっかけになり、どんどん話が決まりました。

コトの様な先生と生徒2人の対話。昨日まで知らなかった人達と、緊張する事なく演じました。



他にも初めて1人でテントを建てたり、ハイキングなど本当に楽しいものでした。

これからも、ボーイスカウト活動を頑張りたいと思います。

お手伝い奉仕 石巻第6回 ボーイ隊副長 阿部香織

9月17日(土) 石巻青年会議所主催の「牡鹿でエンジョイ！～家族時間～」が、おしか家族旅行村オートキャンプ場で開催され、石巻第6団有志7名が奉仕として参加しました。

依頼された作業内容は、テント設営と撤収、火起こし体験と炊飯体験のサポートでした。

当日は、14家族が参加、スカウト達は担当のテントサイトで各家族のサポートをしました。

最高気温27℃、湿度の高い日でしたが、スカウト達は慣れた手つきでテントを設営していました。

火起こし体験では、割り箸の組み方、牛乳パックのちぎり方などを各班で工夫し、火を起こす事が出来ました。

参加いただいたご父兄からは「ボーイスカウトって頼もしいですね！」というお言葉を頂きました。



団キャンプレポート 塩釜第1回 カブスカウト隊 保護者 大友三恵

2022年10月8日から10日の2泊3日、団キャンプが国立岩手山青少年交流の家にて実施されました。今回の団キャンプは、私たち塩釜第1団の創立60周年記念の年ということもあり、スカウトみんなが特別な思いを寄せながら、楽しみに準備を進めた行事です。

その中、目的のひとつとして訪れた後藤新平記念館で開催されている特別展「健児を愛し 愛された 涙の総長 ～ボーイスカウト初代総長就任100年～」を、スカウト・指導者みんなで見られたことはとても思い出に残りました。当時のスカウト活動の写真に、スカウトたちはとても興味深く見入っていました。

また、初代総長として子どもたちを見守る後藤新平の姿を写した一枚に、私自身とても感動し、今も活動が引き継がれ、参加しているということに感謝の気持ちが溢れました。キャンプ中はカブ隊・ボーイ隊・指導者の皆さんと一緒にスポーツをしたり、食事をしたり、夜には学校の宿題や勉強を教え合ったりと、世代を超えた交流がとても楽しかったです。

コロナ禍で、未だ活動が制限されている中で、今回のようなキャンプを実現していただき、貴重な時間を過ごせたことはスカウトみんなの思い出にしっかりと残り、大きな成長をもたらしてくれた行事だったと思います。



視野を広げてくれた富士特別野営 ボーイスカウト仙台第37回 日野竜之介



仲間をもっと作り、他県のスカウトと技術交流をしたいと思い、8月14日～8月19日に滋賀県の琵琶湖周辺で開催された富士特別野営に参加しました。

参加には準章取得が必須のため、参加まではレポートの作成や訓練を繰り返していました。その努力を發揮しようと思い、富士特別野営に取り組みました。

一番印象深いプログラムは、2泊3日の登山。4人程度の班で約20Kmの山道を歩きました。普段登っている山とは違い、道が整備されておらず、木が道に倒れていることもあり。その為、道とそれ以外の区別がつかず何回も迷いそうになりました。途中、虫に噛まれたり、大雨が降ったりもしました。結果として長距離の登山で余計な場所も歩いたため、足に疲れが溜まり、思うように歩けず、半分歩いたところで時間となってしまいました。

参加していたスカウトですごくと思ったのは、班員の人が植物に詳しく、道中で倒木の木の種類などを言っていたことです。自分もマニアックな話を人にしてみたいと思い、もっとスカウト活動に繋がる技能や知識を勉強したいと思いました。また、いろいろなスカウトから知らないスカウトソングを数多く聴きました。

富士特別野営に参加して、自分の知らなかった技能や知識を得ることができました。加えて色々なスカウトソングを聴きたい等視野を広げることができました。これからも一層スカウト活動に励んで自分自身の技能や知識の向上に努めていきたいです。

また、この経験を後輩のスカウトたちに話して富士特別野営に興味を持ってもらいたいです。

「富士特別野営」大会の詳細はスカウティング2022年11月号 No.752号に詳しく掲載されております

『スカウティング』は、ボーイスカウトに関するさまざまな情報や野外でのスキル、青少年教育関連など、盛りだくさんな内容が掲載されている機関誌です。

事故を起こさないようするためにリスクマネジメントを徹底しよう 仙台第37回 吉田幸弘

皆さんは「リスクマネジメント」を説明出来ますか。危険や事故につながる可能性を洗い出し、それを事前に防ぐ為、対策管理徹底し、次に繋げる為に継続努力する事だと思います。

その理解を深める為、10月2日（日）13:00～16:00県連事務所の会議室にて行われた、NPO法人自然体験活動推進協議会主催のリスクマネジメント講習会に参加しました。尚、この講習会は私を含めボーイスカウト指導者8名参加しました。他には学校関係者の方もいて、20名の講習会となりました。

さて、リスクマネジメントの一例として、

- ・山道を歩くのに半袖で歩くと虫に刺される為、長袖を着るように指導する。
- ・キャンプへ行く際、テントや刃物・工具の状態を事前に調べて、補修箇所が無い確認し、常に良好な状態にする

など、「これ・あれ危ないからこうしよう」と考えれば無数に挙げられると思います。

このリスクマネジメントで必ず勉強するのが図に示します「ハインリッヒの法則」です。今回の研修でも出ました。突然人前で説明とお願いされた時は、心臓バクバクでしたが、何とか説明する事が出来ました。余談ですがよくセミナーでは300の数字を隠して、どれくらいあるでしょう？とクイズ形式で出すセミナーもあります。ここで大事な数字ではなく、その可能性をどれだけ、自分たちは準備・予測出来るかです。そして、ヒヤリ・ハットとはハットしたなど、事故につながる可能性の原因をさします。スカウトのモットーは「そなえよつねに」です。それは、事故を起こさないように準備と予測をするという意味も含まれていると今、この文章を書いて強く感じます。

皆さんも事故を起こさないように、常に準備と予測をして、活動をしてください。



みんなで地域の防災を考えよう！

9月30日、イオンモール富谷において全国防災キャラバンが開催されました。もしものときの、思いやり防災、ハンディキャップ体験、宮城県防災士協会さまの協賛によるAEDの使い方、心肺蘇生法による心臓マッサージの実技指導等のコーナーをつくり開催しました。

各コーナー楽しく体験できるよう、スタンプラリーを取りいれました。全てのコーナーを回ると記念品をゲット。多くの皆さんに楽しみながら防災、減災を知っていただけた、興味を持っていただけたようでした。



あつという間に30年 ボーイスカウト宮城県連盟 前事務局員 大山由美子

この度、30年勤務していたボーイスカウト宮城県連盟事務局を退職致しました。

お仕事をするきっかけは、当時連盟長の山本壮一郎知事の計らいで、事務所をガールスカウト宮城県連盟と一緒に借りることになり、事務を執る人を探していたことでした。

ガールスカウトの事務局には、最初事務の方が居られず、両方の電話を受けていました。仕事も分からない事ばかり。皆さんにご迷惑をおかけしながら、あつという間に30年経ってしまいました。



最近では、スカウトの減少やリーダー不足で、皆さん大変な思いをされていると思いますが、役員の方々、指導者の方々の頑張りには頭が下がります。

そういう皆さんのために、本当にお役に立てていたのだろうか？と反省しております。

そういう中でうれしいことは、小さかったスカウトが指導者になってくれることです。これからは塩釜第1団団委員長として、宮城県連盟の弥栄をお祈りしたいと思います。



この度、長い間宮城県連盟事務局として勤めていただいた大山事務局員が退職されることになりました。謹んで感謝すると共に、これからも末永くご活躍頂くことを祈念します。本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

ボーイスカウト日本連盟のホームページには、体験・入隊・支援など知りたい情報がいっぱい！
加盟員はもちろん、興味のある方も見て下さいね。 ※以下の記事は日本連盟ホームページより引用、作成しました。



ボーイスカウトは、何を目的に活動しているの？

ボーイスカウトは子どもたちの好奇心や探求心にこたえる活動を通して、心身ともに健全な人材を育成することを目的とする世界的な教育運動です。

ボーイスカウトと聞くと、イメージするのはキャンプやハイキング、街頭募金などよくいわれます。ボーイスカウトの活動は、主に野外で、子どもたちの自主性を大切に行います。

グループでの活動を通じて、それぞれの自主性、協調性、社会性、たくましさやリーダーシップなどを育み、「一人前」な人を目指しています。

そのプログラムはバラエティに富んでいて、各年代においてさまざまです。

ボーイスカウトの活動を知りたい、見てみたい！



ボーイスカウトでは、普段の活動を活かして「ボーイスカウトと遊ぼう！ワクワク自然体験あそび」を展開しております。新型コロナウイルス感染症の流行による屋外活動の減少や未知の感染症への不安の高まりを考慮し、各地の感染状況や感染防止に十分留意した上で、自然の中での体験活動を実施しております。この体験あそびに参加いただければ、どのような活動をしているか見て・知っていただけます。



ボーイスカウトには子どもたちを健康に育てる 独自の教育法・特徴があります

- 【教育の特徴】
- ① 体験を通じた活動
 - ② 自発的な活動
 - ③ 異年齢が集うグループで活動
 - ④ 個性を伸ばすことができる豊富な選択肢がある

ボーイスカウトの目的と教育法を正しく知って頂くため スカウトセミナーを受講しませんか！



セミナーは、年3回程度「日帰り」コースとして開設されております。内容は、一般の参加者にもボーイスカウト運動の目的と教育方法を正しく知っていただけるよう、わかりやすい内容のセミナーになっております。詳細については、ボーイスカウト宮城県連盟事務局、または、お近くの団にお問い合わせ下さい。

【お願い】日本ボーイスカウト宮城県連盟事務局は不定期で開所されております。電話で連絡がつかない場合、ホームページよりメールでお問い合わせ下さい。



■編集後記 今年にはボーイスカウト日本連盟創立100周年の年、次の100年を見据えて活動が行われております。第18回日本ジャンボリーもその一つ。残念な結果となりましたが、スカウト・リーダーは皆元気。次の目標に向けて活動をはじめていることが寄稿文からも知ることが出来ます。ボーイスカウトのモットー「そなえよ常に」の実践のたまものかなと。

子どもの頃にしか出来ない、子どもだから出来る、その時しか出来ない体験、大人として支援・応援してあげたいですね。子どもたちの成長には大人の力が必要です。

ボーイスカウトに興味のある方、いっしょに活動に参加・応援しませんか！

■発行日 令和4年11月1日
 ■発行 日本ボーイスカウト宮城県連盟
 〒985-0841 多賀城市鶴ヶ谷1丁目4番1号
 (宮城県多賀城分庁舎)
 電話 022-355-6265
 ■発行人 日本ボーイスカウト宮城県連盟
 理事長 日下 清
 ■編集人 日本ボーイスカウト宮城県連盟
 広報委員会 委員長 佐竹孝喜